

平成30年6月20日現在

機関番号：33916

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2017

課題番号：26670257

研究課題名（和文）地域包括ケアシステムの問題点－医療通訳システムの必要性と提言

研究課題名（英文）Necessity and suggestions for healthcare interpreting system - in terms of community-based integrated care system

研究代表者

服部 しのぶ（HATTORI, SHINOBU）

藤田保健衛生大学・保健学研究科・准教授

研究者番号：40321012

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,800,000円

研究成果の概要（和文）：在留外国人や訪日外国人が病院を受診する際に最大の壁となる言語の問題を解決するための医療通訳者に焦点を当て、その能力の担保となる認定制度やより良いシステム構築に向けて、国内外の情報収集を行い、発表した。また、医療通訳者への質問紙調査により、医療通訳者が身につける能力を解明することで、その養成プログラムの内容を効果的なものにするため、通訳者の国籍などにより差をつけることがよいと明らかにした。

医療通訳者は、地域包括ケアシステムの多職種連携の一役を担うべきという立場からの、地方自治体への働きかけは、残念ながら不十分である。

研究成果の概要（英文）：Researched the current situation of healthcare interpreting in Japan as well as overseas, aiming for establishment of accreditation system and better system to secure performance of healthcare interpreters, who can solve the language problems which become the biggest barriers when foreign people coming to Japan or foreign residents visiting hospitals. Conducted a survey for healthcare interpreters to reveal their acquired competence through interpreting and as a result, it was found that contents of the training program should be differentiated depending on the nationality of interpreters in order for the program to work effectively. Unfortunately, suggestions to the local governments have not fully made yet, although it seems to be true that healthcare interpreters should play a role in multi-occupational cooperation in community-based integrated care system.

研究分野：医療通訳

キーワード：医療通訳者 コンピテンス

1. 研究開始当初の背景

昨今来日する外国人の多様化により、医療機関でも英語だけでなく多言語による通訳の必要性が高まってきている。しかし、医療通訳の歴史をみると、もともとボランティアから始まっており、命に関わる高度な通訳をしているにもかかわらず専門職としての認識はほとんどされていない。また、医療通訳者の養成も、日本各地の外国人コミュニティの状況と必要とされる言語も違うことから、内容やその方法に差異がある。当然そのレベルにもばらつきが生じる。医療通訳育成カリキュラム基準が設けられてはいるが、医療通訳者の質を担保する全国レベルでの認定資格のようなものもまだできておらず、医療通訳者として実際に活動している人を取り巻く環境は不十分と言わざるを得ない。そこで、本研究では、医療通訳者の現状を調査し、将来的に専門職として認識されるためのより良い教育システムの構築や待遇改善につながる認定資格試験制度の策定にむけて、質問紙調査や関係団体の調査、さらに先進海外事情の調査をすることで日本の医療通訳者制度の導入への提言を目指す。

2. 研究の目的

医療における医療通訳の位置づけを明確にするため、国内外の医療通訳者を取り巻く現状を調査し、国際基準に沿った医療通訳制度の策定をするため、医療通訳の役割を明らかにし、それに必要な能力を解明する。また、医療通訳者の能力を効率的に教育するための手法を構築するため、その能力の評価、教育技法を明らかにする。さらに、地域包括ケアシステムへ本医療通訳制度を導入するための提言を行い、日本における外国人患者がより安心して医療を受けられる社会実現を目指す。

3. 研究の方法

(1) 医療通訳者の実態を調査するため、まず、国内の医療通訳団体を通して医療通訳者に対し、質問紙調査やインタビューを実施する。

(2) 海外の医療通訳システムを参考にするため現地調査をし、医療通訳者に対し質問紙調査やインタビューを実施する。

(3) 調査結果から、医療通訳者の職能・役割を明らかにし、医療通訳者の効率的な教育手法構築のための提言をする。

4. 研究成果

(1) ドイツでの大学病院での医療通訳について、コーディネーター兼通訳者にインタビューを実施した。この病院は特に、海外からの手術を受け入れており、その際の言語支援については、まずは患者側がメールなどでカルテなど必要な情報を翻訳したものを付けて病院に打診し、病院が受け入れ可能と判断すれば、費用の見積りを提示し患者が支払い

可能であるならば、受入れをする。現地に来てからの言語支援が必要なら、患者が病院に依頼し、病院は有料で通訳者を準備することだった。病院には通訳者のリストがあり、そこから通訳者に業務の依頼をしている。通訳者の資格制度などについては、特になかったことだった。

(2) オーストラリアでの医療通訳システムの調査と医療通訳者へのインタビューを実施した。NSW州は、オーストラリアにおいて医療通訳システムが最もうまく機能しているところであり、約120言語、24時間対応(電話通訳も含めて)しており、通訳利用は無料である。医療通訳者は通訳の資格認定試験であるNAATIに合格していることが雇用のためには必須条件であるが、希少言語については試験がないものもあるためNAATIの資格なしでも通訳業務をしている。この試験は、一般的な通訳技術を判断するもので、合格後に医療分野の研修を受けることになっている。また、資格更新のためのポイント制も導入され、スキルの維持ができるようになっている。取得後のフォローアップ研修も充実しているのは、通訳者のため、ひいては利用者側にも良いことである。資格を取得しただけで実践を積んでいない通訳者には、資格の更新がされないシステムになっている。

通訳者へのインタビューでは、難民の通訳や内容の重いものなどの場合、通訳者の精神衛生を守るために1日の通訳件数を制限することもあるとのことだった。日本でも通訳者は自分の限界を知り、自分自身の心の健康を守るように指導をしているが、人材不足の場合もあり、通訳コーディネーターとの連携を図る必要があると感じた。

(3) アメリカのCCHCPのBTGプログラムに参加し、40時間の医療通訳養成を体験した。医療通訳者の役割・倫理・文化の仲介者としての役割・医療・保険システム・通訳技術などについて座学・ロールプレイを通して学習した。日本で現在実施されている養成講座は、このBTGプログラムを参考にしているところが多いため、現地で体験できたことは大変参考になった。参加者の言語は多岐にわたっていたが、英語を共通語として養成は実施された。日本の状況を考えると、今後多様化する言語の通訳者養成には、英語と日本語を使用することで適用できると実感した。

(4) 移民の多いカナダでは、ウィニペグ州保健局のランゲージアクセスオフィスを訪問し、医療通訳の養成・派遣システムについて調査し、医療通訳者へのインタビューを実施した。対面通訳は30言語、電話通訳は200言語に対応可能とのことであった(アボリジニー、イヌイット、手話も言語として含まれている)。医療通訳者は、72時間かけてコミュニティ通訳ができるように養成し、その後、

司法や医療分野の研修を受けることで、どちらの分野にでも通訳として従事しているとのことだった。異文化理解は通訳者にとって重要な点であるが、ステレオタイプや偏見を持つことになってはいけなないので、トレーニングの中では、それほど重要視しないとのことだった。

中国語、スワヒリ語、ロシア語通訳者へのインタビューでは、バックグラウンドが母国で医療に携わっていた人もおり、その経験を生かしたいとか、教会の活動を通して人助けをしたいとか、母国では歴史の教師をしていて言語に興味を持っていたがカナダに来てからは、その言葉で人助けができるのならとトレーニングを受けて通訳をしているなどさまざまであった。また、どのようにスキルの維持に努めているかについては、主に個人の努力に寄るところが大きいが、勉強会などが開催されるときには積極的に参加することだった。

実際の診療において通訳者が通訳している場面に立ち合うことができたが、通訳者は慣れているようでメモも取らずに行っていた。医師も通訳者が介入することについてよく理解しており、通訳者とのタイミングなどもうまく合っていた。

通訳者派遣のシステム担当のスタッフも数人おり、病院からの依頼連絡や通訳者への打診などすべてパソコン上で管理されているため、担当者が変わっても、業務が滞ることなく行われていた。

(5) 韓国ソウルでの心臓専門病院を訪問し海外部門での医療通訳・コーディネーターにインタビューを実施した。JCI 認証も取得済みであり、外国語対応(ロシア・モンゴル・カザフスタン・中国)できており、基本的にコーディネート業務も通訳者が兼ねる形をとっていた。この通訳者たちのほとんどのバックグラウンドは看護職であり、また国際部門の看護師は英語が堪能であり、事務職も海外からの訪問者を案内するには十分英語でコミュニケーションが取れた。通訳者は、現地の当該言語を母語とする人や、韓国人で語学に堪能な人がトレーニングを受け、OJT で実地訓練を積んできたとのことであった。医療通訳の国家資格はあるが、まだそれほど浸透していないようであった。その分、病院内で、看護師も語学面でのスキルアップを図るべく自己研修をしており、外国人患者を受け入れる医療機関は、それぞれが意識をして準備をしているようであった。

(6) 国内の医療通訳者への質問紙調査により、「医療通訳者が医療通訳を経験することで獲得するコンピテンスに関する調査報告書」としてまとめた。医療通訳育成カリキュラム基準が公表されて以降、日本各地で医療通訳関連団体がそれに従ったカリキュラムを独自に作成し医療通訳者を養成してきて

いるが、その質を担保するような統一された資格もまだなく、内容の是非は不明である。また、医療通訳候補生は日本人だけでなく地域在住外国人もその対象となるが、養成プログラムの内容を日本人と外国人と別のものに変えているということは聞いたことがない。このような状況で、医療通訳候補生の属性によって内容を変えるなどの工夫をすることで現在の養成プログラムを改善することができるのではないか、という仮説のもと、医療通訳の職能解明・役割の明確化のため、質問紙調査を行った。結果的に、医療通訳の経験や医療通訳者の母語などにより、医療通訳を経験することで獲得する能力が影響を受けることが明らかになった。今後、医療通訳の育成に関するカリキュラムには、属性に合わせた基準が必要であると考えられる。

5. 主な発表論文等

(研究表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 4 件)

(1) 服部しのぶ、菅沼太陽 地域包括ケアシステムと医療通訳者、日本医学教育学会、Medical Education suppl. 査読有 Vol.48 p251 2017

(2) 菅沼太陽、服部しのぶ 医療通訳者が身につける能力因子、日本医学教育学会、Medical Education suppl. 査読有 Vol.47 p237 2016

(3) 服部しのぶ、「医療通訳者に求められるもの-医療現場の視点から-」、異文化間情報ネットワーク学会、I'NEXUS、査読有、Vol.8, pp1-9、2016

(4) 浅野輝子、服部しのぶ他、The process of building up the “Aichi Medial Interpreting system” and its future, Man vs. Machine? 査読有.vol.1, 2014 pp493-501

[学会発表](計 4 件)

(1) 服部しのぶ、菅沼太陽 地域包括ケアシステムと医療通訳者、日本医学教育学会、2017

(2) 菅沼太陽、服部しのぶ 医療通訳者が身につける能力因子、日本医学教育学会、2016

(3) 服部しのぶ 医療通訳者養成からみた異文化間コミュニケーション 大学英語教育学会、2015

(4) 服部しのぶ 日本の医療通訳の展望：グローバル時代における日本の医療通訳の在り方、日本医学英語教育学会、2015

[図書](計 件)

〔産業財産権〕

出願状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

服部しのぶ (HATTORI, Shinobu)
藤田保健衛生大学・保健学研究科・准教授
研究者番号：40321012

(2) 研究分担者

菅沼太陽 (SUGANUMA, Taiyo)
東京女子医科大学・医学教育学教室・助教
研究者番号：00328379

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()